厚生労働省が WHO と共同で、アジア太平洋諸国の薬剤耐性対策を強化するプレスリリースを公表しました（2026 年 10 月 5 日）

厚生労働省 HP
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000120172.html
プレスリリース
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001756259.pdf
AMR リファレンスセンター
https://amr.jihs.go.jp/information/campaign2025.html

＜対策の概要＞

薬剤耐性（AMR：Antimicrobial Resistance）は、細菌などの微生物が抗菌薬（抗生物質など）に対して耐性を獲得し、薬が効きにくくなる、あるいは効かなくなる現象です。主な原因として、抗菌薬が必要でない場面で使われたり、適切な使い方が徹底されなかったりすることが挙げられます。

厚生労働省は AMR を「サイレントパンデミック（静かな世界的流行）」と位置付けており、このまま有効な対策が取られなければ、2050 年には世界で年間 1,000 万人が AMR 関連で死亡する可能性があると警鐘を鳴らしています。

AMR 対策とは「抗菌薬を必要な人に、必要なときだけ、適切に使うことで、将来も感染症を治療できる社会を守る取り組み」のことで、国民、医療者一人一人が認識する必要があります。

＜プレスリリースの概要＞

アジア太平洋地域の 28 か国を対象とした調査の結果、多くの国で AMR 対策アクションプランの整備が進み、計画の具体性や評価体制は向上していることが明らかになりました。一方で、実施に必要な資金確保が十分ではなく、対策推進の大きな課題となっています。2019 年にはアジア太平洋地域で推計 260 万人の AMR 関連死亡が発生し、WHO 西太平洋地域では 2020～2030 年の間に 500 万人超の死亡と最大 1,480 億ドルの経済損失が予測されています。

＜日本での主な取り組み＞

1. 抗菌薬の適正使用（Antimicrobial Stewardship）
   適切な薬剤を必要な場合に限り適切な量と期間で使用する。

2. ワンヘルス（One Health）アプローチ
   人の医療だけでなく、動物、食品、環境、を含めて薬剤耐性を監視・対策する。

3. 普及啓発
   国民向けに AMR 対策推進月間や啓発動画、広報活動を実施し、正しい知識の普及を進める。
   啓発動画：https://www.youtube.com/watch?v=x_VIBlQjGvw

